

質 問

記録的な豪雨に対する 防災対策を

内田 勇 議員

町長 情報収集の体系的な
システムづくりが大切だ



問 豪雨対策について、地球温暖化のためか、7月末には鳥根県西部は津和野町をはじめ各地で大きな被害が発生した。このような記録的な豪雨は、今後発生する可能性が高く、防災対策の強化について問う。

答 時間雨量100ミリを越えるような所も出ている。津和野町の豪雨災害を見ても、ピンポイントですごい雨が降っており、十分な注意が必要だ。今、防災体制でも雨量マップも出ており、全国の雨量情報も24時間出ているので雨量マップを見続けることで、町民の財産、命を守る第一である。避難勧告についても、夕方以降は大変危険なの

で明るうちに発令を出すようにしたい。

問 災害時の要援護者に対する避難対策についての確な体制づくりを。

答 日々の状況変化も踏まえ要援護者に対する支援をGISマップ等も活用し対応システムをつくる必要がある。

問 災害発生時の速やかな情報発信と、情報収集が重要である。また東日本大震災での甚大な被害状況の教訓から被災者支援システムが全国の自治体で導入されているが、

答 どういう災害が起こり得るのかという情報収集の体系的なシステムづくりが一番大切だ。

国土交通省と防災協定も締結しており、昨年から防災行政無線も導入し情報収集と発信の迅速化に努めているが、被災者支援システムについては今後よく検討し導入していきたい。

問 本年5月、上阿井の町に「ふらっとふるさと」という高齢者のコミュニティの場所、寄り合いの場所が多く皆さんの善意で開設され喜ばれている。このような取り組みの高齢者支援を。

答 各地域で高齢者のサロンができて、皆さんがふれあいをしながらいい時間を楽しまれることは極めて大切である。

現在、社会福祉協議会で小地域サロン事業を呼びかけられており、積極的に利用していただき、自治会などで自主的にコミュニティの場をふやしていただき、支援についても対応したい。

問 ひとり暮らしの高齢者や健康不安を抱える高齢者を始め町民の誰でも利用できる24時間対応の健康電話相談事業の導入の検討を。

答 内田健康づくり推進室長
この事業は専用のフリーダイヤルにより、医師、看護師が24時間の電話健康サービスを提供するもので他の市町村の利用状況を調査し検討したい。

問 全国で79万人を超えるひきこもりの方がおられる。町独自の支援センター、相談窓口の設置を。

答 支援の方法も考えなければならぬが、行政がどこまでかわるのか。まずは家族の問題である。家族の形勢がおかしくなっている。地域社会や行政がよく考えた上で検討すべき問題だ。

避難の順序

- 1 まず、近くの安全な場所へ
地震や大雨などによる浸水が起きたら、近くの学校や公園、空き地など広くて安全な場所に避難して下さい。
- 2 地域防災拠点へ避難
お住まいの家が倒壊したり、到着する恐れがあるときには、指定された地域防災拠点に避難します。地域防災拠点には、飲料水や食料、生活用品などが備えてあり、一時的に避難生活を送ることが出来ます。
- 3 広域避難場所へ避難
避難している学校や公園、空き地などが周辺の大火災などで危険になりそうときは、広域避難場所へ避難して下さい。

避難の順序確認を